

金沢の武家文化を国内外に発信する「さむらい KANAZAWA」プロジェクト

学生と市民のパワーで世界に広げる武士文化の会：北陸大学 未来創造学部 教授 武田幸男
 北陸大学 未来創造学部 教授 長谷川孝徳
 参加学生 茂木香保理、王晶、毛趙亮、劉欣、張東若、その他 39 名
 参加市民 総勢 28 名

1. 活動の概要

金沢には「小京都」というイメージがあることから、学生や市民と一緒に金沢独自の魅力である「武家文化の町」を発信するための活動である。具体的には、武士や町娘、忍者の衣装で町中を歩き、武士文化の価値をパンフレットの配布をしながら観光客に説明を行うものである。町並みの保存をするために武家文化の発信だけでなく禁煙の促進なども行った。2015 年には 4 回の活動を実施し、毎回マスコミ等で報道された。

2. 活動の内容

(1) 活動の骨子

金沢は歴史的観光資源が豊かであるにも関わらず、国内においては「小京都」というイメージが強く、海外に至っては認知度がまだまだ低い状態である。金沢独自の魅力を国内外に発信する為には、京都との明確な差別化を図ることが重要であると考えます。金沢は、能楽や茶の湯など数々の武士文化が市民生活に色濃く残っており、「武士文化の町」であると言える。この「金沢は武士文化の町」という新しいメッセージを国内外に発信するために、市民の方からは着付け・髪結い、場所の提供、衣装提供など活動支援を頂いた。2020 年のオリンピックに向けて、来日する外国人観光客を呼び込むことを目的としている。



(2) 活動実績

本プロジェクトは 6 月からの実施であるが、「さむらい KANAZAWA」として 3 月より活動を開始。

日付	場所	活動内容
3. 14	ひがし茶屋街	北陸新幹線開通日に第 1 回を実施。観光客に金沢がどのように認識されているかの調査を行った。
5. 3	近江町、主計町、ひがし茶屋街	総勢 40 名ほどで実施。外国人観光客に対して、金沢に来た理由を調査した。
7 月	東山、橋場町	ひがし茶屋街に来る観光客がどのような動きをしているか、バス停からひがし茶屋街までの動向調査を行った。
8 月	北陸大学	調査結果から、浅野川バス停などに案内板が無いために道に迷う観光客が多いことが分かった。火の見櫓周辺に観光客が溢れており、交通事故の危険性も指摘された。
10. 29	東山周辺	地域の方々に第 3 回の実施の挨拶と協力をお願いに回った。
11. 3	東山 3 丁目火の見櫓跡地	観光客が増えると予想された JCI 世界会議金沢大会の開催期間に、金沢青年会議所と協働で実施。火の見櫓の跡地にテントを設置した。
12. 23	東山 3 丁目火の見櫓跡地	フジテレビの取材で元プロ野球選手の古田敦也さんからインタビューを受けた。12 月 31 日に全国放送され、日本中に「さむらい KANAZAWA」の活動を発信することができた。

■第1回 3月14日 金沢のイメージ調査

参加学生：32人 市民：18人



- ① 北陸新幹線開業により沢山の観光客で賑わっている。
- ② 武士文化を伝えるパンフレットの配布と、金沢のイメージについて調査した。結果は52%が「小京都」というイメージを持っていることが分かった。
- ③ 袴姿は珍しく、多くの観光客と写真撮影をして喜ばれた。
- ④ 日本テレビ「ZIP」の取材を受け、全国に活動の映像がながれた。



■第2回 5月3日 外国人にアンケート調査

参加学生：33名、市民：5名



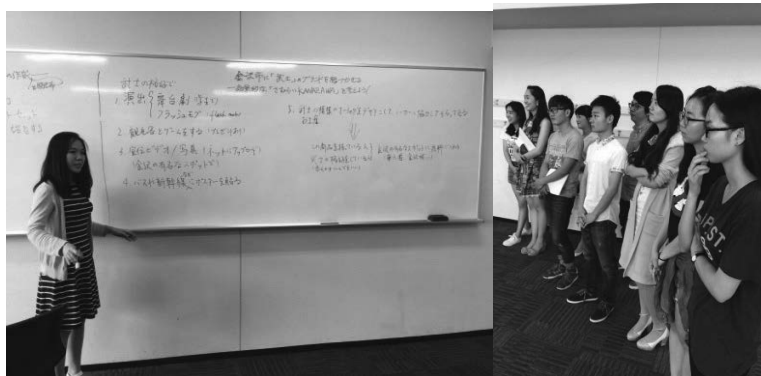
- ① 総勢38名。迫力があり注目を浴びた。
- ② 外国人観光客の、金沢に来た理由を調査した。
- ③ 新たにパンフレットを製作し、配布を行った。

■7月 観光客動向調査 参加学生：5名



- ① これまでの活動で、観光客が道に迷い火の見櫓跡地辺りに溢れていることが分かった。交通事故の危険性もあり、東山地区の観光において大きな問題である。
- ② 問題解決のために、観光客の動向調査を行った。

■8月 動向調査の結果を討議 参加学生：17名



- ① 観光客の動向調査の結果をもとに討議を行った。
- ② バス停や観光客が多く歩く場所などに、ひがし茶屋街への案内板の整備が無いことが判明した。
- ③ 地域の方からは、火の見櫓跡地で観光客に案内ができると観光客にとっていいのではないかという意見があった。

- ④ 火の見櫓は歴史的にも価値があり、それを見直すことは意義のあることであり、武士文化の発信にも役立つと考え「番屋」の設置が提案された。

■10月29日 次回の活動前に地域の皆さんに挨拶、北陸中日新聞の取材

参加学生：2名



- ① 次回からは地域の問題緩和のために、火の見櫓跡地にテントを張り活動を行うこととなった。
- ② 事前に金澤東山まちづくり協議会や町会、近隣の店舗に活動へのご理解とご協力をお願いに足を運んだ。これまでの活動実績が評価されておりご理解とご協力を得ることができた。
- ③ この活動で火の見櫓の価値を見直すきっかけとなり、北陸中日新聞に取り上げられた。

■第3回 JCI世界会議金沢大会 金沢青年会議所との協働

参加学生：8名 市民：20名



- ① JCI世界会議金沢大会の開催期間に海外からの観光客増加が見込まれるため、金沢青年会議所と協働で活動を行った。
- ② 火の見櫓跡地にテントを設置。テントは景観に配慮して選定した。
- ③ テントに合わせて「武士の町 金沢」と、茶屋街は街並み保存のために「禁煙」地区であることを訴える懸垂幕を作成した。

■第4回 12月23日 元プロ野球選手古田敦也さんリポート フジテレビ取材

参加学生：12名 市民：11名



元プロ野球選手の古田敦也さんが継続した活動により、フジテレビの取材を受けた。

3. 地域活動の成果

活動を通して、人気観光地の一つである東山周辺の観光における問題点や課題が明確になった。継続した活動により、東山町会や金澤東山まちづくり協議会、さらには金沢青年会議所など多くの団体や市民の方々からご理解とご協力を得ることができた。また、日本テレビやフジテレビ、北國新聞や北陸中日新聞からの取材もあり、日本全国に「さむらい KANAZAWA」の活動をPRすることができた。

4. 来年度の地域活動計画

2016年は問題改善のため、歴史的にも価値のある東山三丁目「火の見櫓」跡地に「番屋」を設置することが進められている。これにより、「武士文化の町」のメッセージ性の強化と、観光地における問題の緩和ができると期待している。また番屋という活動拠点を最大限活用するために、活動回数の増加を予定。学生の活動は週末に限られるため、平日は市民のご協力を仰ぐことになる。運営形態については現在検討中であるが、継続性を重視したい。

5. 学生の感想 北陸大学未来創造学部3年 王晶

着物を着たり、日本髪を結ったりと、実際に日本の伝統文化に触れることができ、素晴らしい体験でした。



6. 地域活動に対する地域からの評価

回を重ねるごとに活動内容が認知され、東山町会や金澤東山まちづくり協議会、さらには金沢青年会議所など多くの団体や市民の方々からご理解とご協力を得ている。「番屋」設置に関しても、武士文化の町としてのイメージアップと混雑など問題の緩和、更には街並み整備にもなり景観が良くなると、ご賛同いただいている。

(1) 連携した地域の方からのコメント

① 東山二丁目町会 砺波さん

我々住民が気付いていなかった「火の見櫓」の価値に着目してくれて大変有り難いと思っています。

② 宇多須神社 宮司 森さん

金沢の「武家文化」を身近に感じられる活動は素晴らしいと思う。観光客の方も楽しんでいると思う。

③ 東山一丁目飲食店経営 木村さん

「武士文化」の発信をしながら、道に迷う観光客への案内が同時に行えるのは非常にいいと思います。「番屋」での活動も期待しています。

(2) 地域の今後の取り組み

今後も、地域の方と一緒に協力して「番屋」という拠点を作ることを目指す。学生と市民が一緒になって金沢の魅力を高めることで、観光客と地域の人々が触れ合う機会がさらに増えるよう努力する。